

ふたりの旅

# 目次

|     |                 |      |
|-----|-----------------|------|
| 1.  | はじめに            | 1    |
| 2.  | 学習旅行日程表         | 2    |
| 3.  | 旅行の経路           | 4    |
| 4.  | 学習テーマとその資料      | 5    |
| 5.  | 信州の植物           | 6    |
| 6.  | 中部山岳地帯の電源開発について | 8    |
| 7.  | 信州の歴史           | 10   |
| 8.  | 信州の伝承           | 13   |
| 9.  | 旅行心得            | 14   |
| 10. | 災害防止対策          | 19   |
| 11. | 旅行団編成表          | 23   |
| 12. | 職務分担表           | 24   |
| 13. | 班員名簿            | 25   |
| 14. | 列車座席割当表         | 33   |
| 15. | 外出許可証           | 36   |
| 16. | 旅をおえて           | 裏表紙裏 |

## はじめに

高くそびえるアルプスの連峯。

そこに広がる果しない樹海。

一瞬眼前にひらける富士の偉容……

自然の雄大さに何も忘れて思わず息をのみこむ瞬間が、この旅行では幾度となく期待される。

またその雄大な自然に挑戦して、営々と努力を続けて来た人間の数々の業績も目のあたりにみることが出来る。

こうしたものを实地に体験出来ること、実際に接した喜びは、私達をとりまいているあらゆるものを、新たな気持で思い直す機会を与えてくれるであろう。そうしたものである。

いつもと違った、旅行での生活は新たな友情を呼び起こし、仲間意識を一層強固にするものと確信している。

周到なる事前の準備と、団体生活の精神に徹した、生徒諸君の自覚のある自主的行動により、無事日程が消化され、この旅行が輝かしい思い出の一頁になるであろうことと念願している。



# 学 習 旅 行 日 程 表

|      |           |       |             |       |             |       |             |       |       |       |       |       |       |       |       |   |
|------|-----------|-------|-------------|-------|-------------|-------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---|
| 7/29 | 呉         | ===== | 広島          | ----- | 名古屋         | ===== |             |       |       |       |       |       |       |       |       |   |
|      | 12:30     |       | 14:40       |       | 23:12 23:30 |       |             |       |       |       |       |       |       |       |       |   |
| 7/30 | (休憩)      | 松本    | =====       | 松本城   | =====       | (昼食)  | 善光寺         | ===== | 志賀高原  | △     |       |       |       |       |       |   |
|      | 4:00 8:00 |       | 8:30        |       | 10:00       |       | 12:00 13:00 |       | 15:00 |       |       |       |       |       |       |   |
| 7/31 | 志賀高原      | ===== | 長郷          | ===== | 大町          | ===== | (昼食)        | 扇沢    | ===== | 黒四ダム  | ===== | 扇沢    | ===== | 松本    | △     |   |
|      | 8:00      |       | 10:00       |       | 12:00       |       | 13:00       |       | 15:33 |       | 18:00 |       |       |       |       |   |
| 8/1  | 松本        | ===== | 美ヶ原         | ===== | 王ヶ頭         | ..... | 美の塔         | ..... | 王ヶ塔   | ===== | 松本    | ===== | 霧ヶ峰   | ===== | 白樺湖   | △ |
|      | 8:00      |       | 9:00        |       |             |       |             |       | 12:00 |       |       |       |       |       | 17:00 |   |
| 8/2  | 白樺湖       | ===== | 河口湖         | ===== | 五合目         | ===== | 山中湖         | ===== | 元箱根   | ===== | 熱海    | ----- | (休憩)  |       |       |   |
|      | 7:30      |       | 11:30 12:30 |       | 14:00       |       | 15:30       |       |       |       | 19:00 |       | 22:52 |       |       |   |
| 8/3  |           | ----- |             | ----- | 広島          | ===== |             | ----- |       |       |       | 呉     |       |       |       |   |
|      |           |       |             |       | 11:56 12:10 |       |             |       |       |       |       | 13:10 |       |       |       |   |

(注: —— 汽車, ===== パス, ..... 徒歩, △ 宿泊地)

## 旅 館

7/30 { ホテル ニュ - 志賀 (長野県下高井郡山ノ内町 志賀高原7148) TEL(026944)2211  
白 樺 荘 (長野県下高井郡山ノ内町 志賀高原) TEL(026944)2831

7/31 { 松本ヘルスセンター (長野県松本市大字里山辺532) TEL松本(02634)③0360  
一 目 千 両 (長野県松本市大字里山辺藤井) TEL松本(02634)②2499

8/1 白樺湖観光ホテル (長野県茅野市市北山 白樺湖) TEL(026668)2201

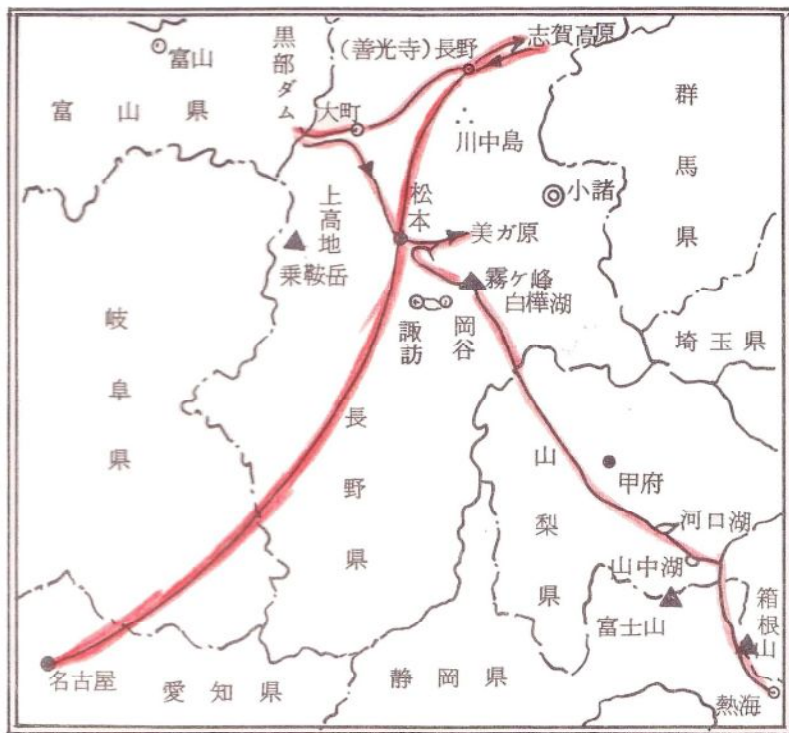
## 熱海休憩場所

※ 海上ホテル (熱海市東海岸通り) TEL(0557)⑧1 5106

- ★ 7月29日(火) 12時: 呉市中央公園集合, 12時20分: バス乗車完了, 12時30分: 出発  
8月3日(日) 午後1時10分: 呉駅前着予定, 噴水のところで解散

# 旅行の経路

学習旅行関係付近略図



◎ コース経路

(参加するコースを赤線でたどると解りやすい)

## 学習テーマとその一資料

### (一) 学習テーマ

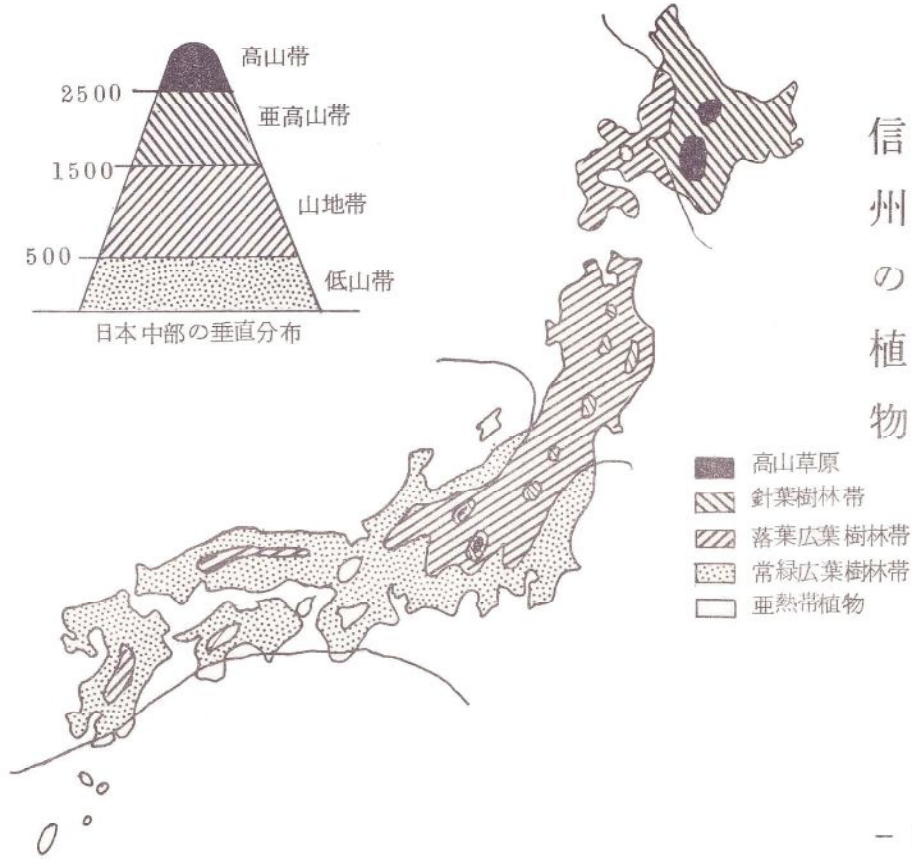
#### (A) 共通テーマ

- ① 信州の植物について
- ② 中部地方の電源開発について
- ③ 長野・松本の歴史について
- ④ 長野方言について

#### (B) 個別テーマ

- ① 川中島の武田・上杉氏の合戦について
- ② 善光寺の発達と歴史について
- ③ 小諸と島崎藤村について
- ④ 黒部ダムとその立地条件
- ⑤ 美ヶ原の高山植物について

# 信州の植物



この度の私達の学習旅行は、北アルプスから志賀高原、美ヶ原など日本中部の山岳、高原地区の広範なもので、この地方一帯は我が国の植物分布区系では温帯に属し、落葉広葉樹を中心とした森林の生育する地方である。

日本中部の山においては右図にも示すように、海拔五〇〇し、五〇〇を山地帯と言い、落葉広葉樹を主とし、二、三〇〇までを亜高山帯と言



い、針葉樹林を主とし、又二、五〇〇以上を高山帯と言ひ、草本植物を主体にし木本植物をみる事ができなくなる。つまり日本中部では二、五〇〇が森林限界と言ふことができる。

◎ 低山帯の植物は、シラカンバ、ブナ、ミズナラ、ナナカマド、サワグルミがある。特にシラカンバは、よくみておくこと。

◎ 亜高山帯には、ツガ、モミ、カラマツ、トウヒ、オオシラビソ、シラベ、ソウシカンバがあり、その上部は高山帯で、ダケカンバ帯となり、更にハイマツ、ミヤマハンノキの低木帯となり、ついにお花畑が散在するようになる。この地帯では、やはりハイマツが圧巻である。亜高山帯の代表的植物であるから、絶対に見逃がさないようにしよう。

◎ 高山帯には、お花畑がみられるが、特に平たん地形や雪渓周辺には、温性植物として、チングルマ、ミヤマキンポウゲ、シナノキンバイ、コバイケソウ、ハクサンイチゲ、岩礫地帯には、乾性植物のコマクサ、クロユリ、イワベンケイ、イワタケ、イワツメクサ、チョウノスケソウなどが生えているが、中でも、コマクサ、クロユリは有名な高山植物である。高山植物は、短い夏を一杯に諸君の登山する頃が花期のものも多く、可憐な花をつけ、旅情をさそひ、高山に来たのだと言ふ喜びを思わせてくれる。最近、心ない旅行者がふえて、高山植物の絶滅寸前のももあるそうで、「決して、花をとらぬこと」、これだけは、守っていただきたい。

前頁の図でも分るよう、その目的地が落葉広葉樹林地帯を中心としているが、丁度旅行が夏だから、落葉樹も葉をつけているので、諸君の眼には、落葉樹林地帯へ来たと言ふ気がしないかも知れないのが、一つ残念である。

しかし、諸君の今度の旅程の大半が低山帯上部から亜高山帯にかけてのものであり、シラカンバ、ダケカンバ、シラビソ、カラマツなどを多く見ることが出来る。

暖帯のしかも内海沿岸に住むわれわれにとって、平素みない植物が多いから、よく観察しておこう。

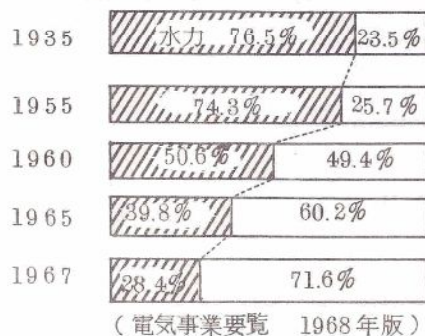
ガイドさんの説明の中にも必ず出てくることだから、質問もしてみよう。

## 中部山岳地帯の電源開発について

一、最近における日本のエネルギー産業の方向

戦後エネルギー産業の生産構造は二つの点で戦前と異なる条件をもつようになった。一つは発電形態が水主火従型から火主水従型へ転換したことである。これは燃料市場を大きく変え石炭、石油産業の生産構造にいちじるしい影響を及ぼした。エネルギー産業は電力を軸としてこれまでには密接な相互関係を生み出しつつある。次に石油産業が生産精製主義から消費地精製主義へ転換したことである。それは国際石油会社の方針が商品輸出から資本輸出へ変わったことを意味し、国際的な石油産業が日本のエネルギー市場に密着しながらその生産構造をかえてゆく過程であった。またこれはガソリン中心から重油を主体とする生産構造へ適応してゆく過程であり、これが石炭保護政策の強化にもかかわらず重油転換を促進する基盤になっている。

わが国の水力・火力発電の割合の変化  
総発電量(KWh)の比率



主要火力発電所(1964)

| 発電所名 | 最大出力<br>(万KW) | 運転開始 |
|------|---------------|------|
| 新名古屋 | 103.6         | 1959 |
| 横浜   | 87.5          | 1962 |
| 川崎   | 70.0          | 1961 |
| 四日市  | 66.0          | 1963 |
| 大坂   | 62.4          | 1959 |
| 千葉   | 60.0          | 1957 |
| 横須賀  | 53.0          | 1960 |
| 仙台   | 52.5          | 1959 |
| 鶴見   | 51.7          | 1955 |
| 新東京  | 48.2          | 1956 |

主要水力発電所(1968)

| 発電所名 | 最大出力<br>(万KW) | 運転開始 |
|------|---------------|------|
| 田子倉  | 38.0          | 1959 |
| 奥只見  | 36.0          | 1960 |
| 佐久間  | 35.0          | 1956 |
| 黒部第4 | 25.2          | 1961 |
| 御母衣  | 21.5          | 1961 |
| 一ヶ瀬  | 18.0          | 1963 |
| 信濃川  | 16.5          | 1939 |
| 畑籙第1 | 13.7          | 1962 |
| 鬼怒川  | 12.7          | 1963 |
| 丸山   | 12.5          | 1954 |

わが国の主要水系別包蔵水力

| 水系別  | 包蔵水力  |        | 既開発   |       | 開発率<br>(最大出力) |
|------|-------|--------|-------|-------|---------------|
|      | 最大出力  | 発電電力量  | 最大出力  | 発電電力量 |               |
| ・木曾川 | 3,326 | 11,155 | 1,210 | 6,583 | 36.4%         |
| ・信濃川 | 3,206 | 10,853 | 999   | 5,754 | 31.2          |
| 阿賀野川 | 2,996 | 8,830  | 1,918 | 5,858 | 64.0          |
| ・神通川 | 2,341 | 5,897  | 596   | 3,414 | 25.5          |
| ・庄川  | 1,622 | 4,301  | 675   | 2,912 | 41.6          |
| 利根川  | 1,347 | 5,558  | 1,035 | 4,376 | 76.8          |
| ・天龍川 | 1,101 | 5,306  | 762   | 3,802 | 69.2          |
| ・黒部川 | 914   | 3,340  | 621   | 2,945 | 67.9          |

1967年3月現在 通産省公益事業局資料  
 (最大出力：千KW, 発電電力量：百万KWh)  
 ・印 中部地方

二、中部山岳地帯の電源開発  
 豊富な水量と急峻な地形を基盤とする電源開発はわが国にとって有利な電力供給源として最近まで急速に進められてきた。しかし水没補償などの問題もからんでこうした条件を満たさず地域はこの中部や東北、さらに九州などにはほぼ限定されてくる。水力発電はいわば東日本型ともいえる。そのうちにおいて近年におけるダム建設は中部山岳地帯が最大となっている。ここにおいて近年におけるダム建設は中部山岳地帯が最大となっている。ここにおいて近年におけるダム建設は中部山岳地帯が最大となっている。

# 信州の歴史

◎ 川中島の合戦について

一、川中島地方の地図と川中島の合戦



1. 武田信玄

(一五二一～七三)  
甲斐守護武田信虎の子。名は晴信。一五四一(天文一〇)年、父を駿河に追放して自立。

領国甲斐国を固め信濃に入って諏訪・小笠原・村上氏らを倒し、一五五五(弘治一)年にはほぼ信濃一円を攻略、一五

六一(永祿四)年、川中島で上杉謙信と激突。その後飛騨や北関東にも進出。一五七〇(元亀一)年には駿河を合わせて中部地方一帯に大領国を形成、織田信長と対立。一五七二(元龜三)年遠江国三方ヶ原に徳川家康と戦って勝ち、勢に乗じて三河に入ったがまもなく陣中で病死した。

2. 上杉謙信(一五三〇～七八)

越後守護代長尾為景の子。初名は景虎、のち政虎、更に輝虎と改む。入道して謙信と称す。一五四八(天文一七)年、兄晴景と争って家を継ぎ、越後春日山城主となる。北条氏康に迫られた関東管領上杉憲政を迎え、次いで武田信玄に庄せられた村上、高梨氏らも越後に援を求めた為、これより後一五六九(永祿二)年まで北条氏康・武田信玄と対抗して兵を信濃・関東に進めた。特に武田信玄との川中島の合戦は有名。その間、一五六一(永祿四)

年憲政から上杉姓と関東管領職を譲られた。七三（天正一）年、越中を平定、次いで能登・加賀に進出して織田信長と対決し上洛して覇をとらえんとしたが病死した。

### 3. 川中島の合戦

現在の信越線「川中島駅」の東南約5km、松代街道のそばに八幡原というささやかな野原があり、川中島合戦の時信玄の本陣が設置された地点という。そこから南方を望むと千曲川を隔てて海津城址の森がすぐ見え、右手に小高い妻女山がある。北は犀川の清流のなだに飯綱・戸隠の連山にたづらなつて信越国境をのぞむ。この辺一帯を川中島というのは、犀川・千曲川の信濃川の二大支流が合流し、広い三角州を形成している為である。

この川中島を中心として、この善光寺平野で信玄と謙信の軍が交戦したのは前後五回ほどであるが、信玄・謙信自身が直接に戦ったのは永禄四（一五六一）年九月の衝突であつて、ふつう川中島合戦というのはこの一戦のことである。この戦鬪の勝敗は明らかではないが、戦後この地方が信玄の制圧下に入ったことからすると、大勢は信玄方に有利に展開したと思われる。

### 4. 風林火山の旗について

現在、山梨県塩山市郊外の古刹雲峯寺に信玄の軍旗と伝えられる旗があり、群青の絹布に金泥でつぎのような文句がある。

疾きこと風の如く

徐かなること木の如し

侵掠すること火の如く

動かざること山の如し

世間で「風林火山」の旗とよんでいるのがこれである。この字句は、有名な兵法書「孫子」の中にある。筆者は武田氏滅亡の時、恵林寺の山間の楼上で猛火の中に泰然として死んだので有名な快川紹喜と伝えられる。雄大な筆跡はいかにも快川とうなずかせるに十分である。

### 5. 敵に塩を送る話

山国（甲斐）に塩がなくなったのは、東海道方面から入って来なくなつたし、信玄と交戦する北条家・今川家が塩の荷を差しとめたからであらう。信玄の当面の強敵上杉謙信が越後から塩を送つてくれることになつた。しかも塩荷の先頭はもう信濃の深志城（松本市）下まできているという報告が、甲府に到着した時、人々は思わず歓呼の声をあげた。

◎ 善光寺

長野市箱清水にある寺。浄土（大本願）・天台（大勧進）両宗の管理に属す。山号定額山、七世紀初期の創造で創立者については諸説があり不詳。六五四（白雉五）諸堂完成と伝えて、古来信仰を集めたが、一五五八（永祿一）年、武田信玄が甲府の新善光寺に本尊を移して以来、織田・豊臣・徳川氏により本尊は各地を転々としたが、一五九七（慶長二）年、本寺に帰る。

◎ 松本藩

信濃国筑摩郡に置かれた藩。藩主戸田氏、譜代大名、六万石。一五九〇（天正一八）石川数正入封にはじまって後、小笠原・戸田・松平・堀田氏とかわり、一六四二（寛永一九）、水野忠清入封（七万石）。その後一七二五（享保一〇）戸田光慈入封（六万石）以後廃藩置県に至る。

◎ 松本城

深志城ともいう。平城（ひらじろ）で勾配のゆるい石垣の上に築かれた五層六階の天守で、現存天守のうち規模の大きいもの一つ。一五〇四（永正一）小笠原氏の一族島立貞永が築城、以後しばしば城主が交替したが、享保年間（一七一六―一七五三）から戸田氏世襲して明治に至った。現存の天守は一五九四（文祿三）から慶長（一五九六―一六一四）の初めにかけて石川氏が造営し、寛永年間（一六二四―一六四三）に大修理を経る。古い城郭建築としての様式を残す。

◎ 名古屋城

名古屋市中区にある。初代徳川義直以来一六代にわたる尾張徳川氏の居城。それ以前の那古野城は大永年間（一五二一―一五二七）今川氏が築城。織田信長が占領したがのち清州に移った為廃城となった。現在残っている名古屋城は一六〇九（慶長一四）徳川家康が西南諸大名に築城を分担させ一六一四年にはほぼ完成。江戸時代城郭建築の代表的存在で平城（ひらじろ）本丸・二の丸・西の丸・御深井丸・三の丸よりなり、大天守は五重五階、穴蔵一階。屋根は二重以上を銅かわらぶき、大棟に有名な金の鯨（しやち）を飾った。第二次世界大戦の空襲で焼失し、鉄筋コンクリートで再建。なお本丸御殿内部の障壁画と隅櫓は戦災は免れた。

## 信州の伝承

### 姨母捨山

今は昔、信濃の国更科まじしなと言ふ所に住む者有りけり。年老いたりける姨母を家にすゑて、親の如くして養ひて、年末相副あひまひて過しけるに、その心に、この姨母をいとはしく思えて、これが姑この如くにて、老いかがまりて居たるを、極めてにくく思ひければ、常に夫にこの姨母の心のく悪しき由を思ひ聞かせければ、夫、「むづかしき事かな。」と言ひて、この姨母の為に、心に非ちで愚かなる事共多く成り持て行きけるに、この姨母いと痛く老いて、腰は二重にて居たり。嫁はいよいよこれをいとひて、「今までこれが死なぬ事よ。」と思ひて、夫に、「この姨母の心の極めてにくきに、深き山にゐりて捨てよ。」と言ひけれども、夫いとほしがりて捨てざりけるを、妻強あなぢに責め言ひければ、夫責められ侘わびて捨てむと思ふ心付きて、八月十五夜の、月のいと明かりける夜、姨母に、「いざ給へ。姫共、寺に極めて貴き事する。見せ奉らむ。」と言ひければ、姨母、「いと吉き事かな。詣てむ。」と言ひければ、男掻き負ひて、高き山の麓に住みければ、その山に遙々と峯に登り立ちて、姨母下り得べくも非ぬ程に成りて、打ちすゑて男逃げて返りぬ。

姨母をいいとわめけど、男答へもせで逃げて家に返りぬ。さて家にて思ふに、妻に責められてかく山に捨てつれども、年来、親の如く養ひて相副あひまひて有りつるに、これを捨てつるがいと悲しく思えけるに、この山の上より月のいと明く差し出でたりければ、終夜よすが寝られず恋しく恋しく思ひて、独言にかくなむ言ひける。

わがこころなぐさめかねつさらしなやをばすて山に照る月をみて  
と言ひて、またその山の峯に行きて、姨母を迎へる来たりける。さて本の如くぞ養ひける。

然れば今の妻の言はむ事に付きて、由無き心を発おこすべからず。今もさる事は有りぬべし。さてその山をば、それよりなむ姨母捨山と言ひける。「なぐさめ難し。」と言ふたとへには、旧事にこれを言ふにぞ。その前には冠山とぞ言ひける。冠の巾子かぶこに似たりけるぞと語り伝へたるとや。

# 旅行心得

## A 服装・携行品

(1) 規定の服装を厳守すること。男子は必ず制帽を、女子も規定の帽子を着用してよい。男女とも運動靴(白)。皮靴、色シャツは不可。胸章をつけること。車内宿舎内では袖のある白シャツ、トレーパンにきかえてもよい。

(2) 持ち物にはすべて学校名・氏名を明記する。

(3) 主な医薬品は学校及び先生で用意されるが、自己の身体状況に応じて特に必要な薬品は各自で用意する。

(4) 携行品

雨具(折りたたみ傘、又はビニールカッパ)、下着(着替用②)、靴下③、トレーパン(男女とも)、空気枕(なくてもよい)、ハンカチ③、チリ紙、ひも類、針と糸、筆記具、生徒手帳(身分証明書)、旅行菜、葉書、薬品(持薬)、水筒、弁当一食分、名札つきクリップ(靴にはさむ)、洗面具、小遣(三千元)、ビニール袋・風呂敷(洗濯物入れ及び防水用)、保険証、コップ、懐中電灯

**注意** 荷物は必要最小限にとどめ出来るだけ一つにまとめること。

間食をし過ぎて車酔いや腹痛の原因にならないように。

## B 行動一般について

(1) 三津田高校生のプライドをもち修学旅行の意義に徹しその実をあげるように努め、特に団体の許律を守ること。

(2) 如何なる場合も引率教師の指揮に従い、常に班長を中心として自主的な秩序ある行動をとること。

(3) 集合点呼は確実迅速に行ない、遅刻して他人に迷惑をかけない。

(4) 風紀言動に注意し旅の恥をかき捨てるのでなく、日常の学園生活の成果を益々高めるよう努力すること。

(5) 班長は常に班員の行動に気を配り、異常があるときは速かに先生に届け出て適切な措置をとること。



- (6) 貴重品の管理は各自で注意し、必要の場合は管理者に預けるとか、集団で荷物を置く場合は適当な場所をえらんで数名の監視員をつける等細心の注意をすること。

(7) 止むを得ず列を離れるときは必ず教師に届け出て許可をえる。

**注意**

日程行動の細部にわたって事前に十分納得しておくこと、暴飲暴食を慎しんで十分な睡眠をとって健康管理をはかることが集団旅行を快適にする秘訣である。

“車中の心得”

- ① 乗車下車のときは先をあらそうことなく列を正しく行なうこと。
- ② 進行中、みだりに別の車輛に出あるいはいたりしない。
- ③ 車窓より物品の投出、手や頭を出したりしないこと。
- ④ 進行中デッキに立たないこと。
- ⑤ もし、車酔いその他事故が発生した時は、すぐ引率者に知らせる。
- ⑥ 停車中は停車時間が短いからホームにおりないこと。
- ⑦ 停車中WCの使用は禁止されている。
- ⑧ 目的の駅に到着前には、自分の荷物を確認し忘れもののない様注意せよ。

## C バス

- (1) H・R毎に教師の指示によって指定の号車に乗車着席のこと。争って席のとりあいをしてはならない。
- (2) バス内ではH・R毎に教師の指示により、指定された席に座ること。特にバスに弱い人は相互に注意して適当な座席を定め快いバス旅行が出来るよう希望する。
- (3) 乗車時刻を厳守し、班長は直ちに人員をたしかめ、旅行委員に報告し発車が迅速にいくように全員で努力すること。
- (4) バスの進行中は頭や手、ひじを窓外に出したり、空かん、空瓶、弁当がらを投げてはならない。
- (5) 車内でガイドの説明を茶化したり、徒らな放歌高唱はつつしむこと。
- (6) 異常の際はただちに教師に報告し出来るだけ早目に措置をこうずるべし。

- (7) バスの安全運転については運転手のみにまかせるのではなく、教師を助けて積極的に配慮すること。又一人の遅刻は全員に迷惑を与える。

#### D 宿舎での心得

- (1) 旅館に到着したら教師の指示及び旅行委員、班長の誘導により各指定の部屋に入室する。その際旅館に対する挨拶を忘れないこと。
- (2) 靴は名札付きのクリップでとめて所定の場所に整頓しておくこと。
- (3) 部屋内での荷物は出来るだけまとめて整頓しておく、部屋中に散らかしたりしないこと。又他人の荷物を勝手に移動してはいけない。  
(混乱疑惑のもとになる。)
- (4) すべて教師班長の指示に従い従業員に必要な以上の世話をかけたり不作法の振舞いがあるてはならない。
- (5) 入浴の時間順序を守り、大衆浴場の入浴エチケットを心得ること。体を流さずに浴槽に入ったり、汚れたタオルをそのまま湯につけたり、立ったまま水をかぶったり、足をふかずに上って板場をぬらしたりしないこと。
- (6) 食事時刻をよく守り、勝手に部屋を移動して配膳をくわしたりしないこと。食事のエチケットはお互いに注意していききたい。
- (7) 自由外出を許可された場合は遊興場所に決して立ち寄ってはならない。一人歩きは禁物で必ずグループをくむこと。特に帰館の時刻(九時又は九時半)をたがえないこと。
- (8) 定められた部屋割りは厳守し勝手に友人同志で交替し合うことはゆるさない。
- (9) 館内では粗暴であったり、互いに感情的ないざごを起したりすることがないようにみんな楽しんで、又十分休息出来る雰囲気をつくるよう心がけること。
- (10) 就寝の際には自分の持ち物を整頓し、翌朝の行動が機敏に出来るように準備すると共に就寝中非常の際にも対処出来るよう心がけておくこと。
- (11) 就寝時刻(九時半又は十時)を厳守し、以後の館内外の往行或いは各室内の遊興雑談・私語は厳禁する。

- (12) 飲酒・喫煙・暴力等の振舞いは決してゆるさない。
- (13) 旅館内に他の宿泊客もあるのだから奔放な行動をつつしみ他人に迷惑をかけてはならない。
- (14) 貴重品はお互いに自分で気をつけると共に班又は部屋毎に貴重品袋にまとめて班長が旅館又は教師に預けるようにしたらよい。
- (15) 宿の器物は丁寧にとり扱い、破損したり乱雑にしたり紛失したりしないこと。
- (16) 非常の際の措置についてはH・R・Tから部屋毎に指示されるからよく理解し、各部屋毎の責任者は非常階段、避難経路を確認して徹底させておくこと。
- (17) 異常の際は各部屋毎の責任者或いは班長は直ちに教師に届出て適切な措置を行なうこと。
- (18) 出立の動作は敏しように各部署の清掃は全員で行ない、忘れ物についてはお互いに気をつけること。尚旅館従業員への挨拶を忘れないこと。

**注意**

起床時間前に起き出して他人に迷惑をかけてはならない。又宿舍の便所使用も清潔に留意すること。

// 外出時の心得 //

- ① 無断外出は絶対に許さない。
- ② 外泊は出来ない。
- ③ 外出は夕食後から九時までとし、宿舍の玄関口で係の先生に届け帰館後も再び確認してもらう。
- ④ 外出は制服制帽を着用し、危険防止の為必ずグループを組むこと。その時グループの責任者はお互いに行動に十分配慮する。
- ⑤ 常に帰館時間を念頭において行動し、宿舍の位置、電話番号を再確認しておくこと。乗に記入してあるから常に携行しておけばよい。
- ⑥ 道に迷った時は通行人でなく附近の商店、交番で道をたずねる。
- ⑦ 外出中の行動は好奇心や旅の気やすさ或いは開放的な気分から群集心理にかられて軽はずみなふるまいをしたり、危険な場所に近づいて悔を残さぬよう、お互いに自重しあうこと。

⑧ 通行者その他の人々に対する態度に気をつけ、礼を失したり又不良といざこざを起したり、すべてつきこまれる隙を作らぬようにすること。

⑨ 外出中不慮の事故に遭遇したときは直ちに旅館に通報し、先生の指示を受けるようグループ員で適当な配慮をすること。

⑩ 親せき、友人との面会は宿舎内ですませること。

**注意** 旅館の電話番号は旅行日程表の頁にある。

## E 山での心得

(1) 泊り客のほとんどは、翌朝4時頃から登山する人達である。

早く寝て早く起きる山男達のためにも、又自分自身のためにも早く寝よう。山の夜九時は都会の真夜中と考えてほしい。

(2) 一般に山岳地の天候は、雨の日、くもりの日、霧の日などはめっきり寒い。防寒のため、セーター類を必ず持参すること。

(3) 美ヶ原の頂上一帯は、高山植物のメッカである。しかし、採集することは禁止されてるから、絶対に踏んだり折ったりしないこと。

## 災害防止対策

災害は各自の不注意、油断から起る場合が最も多い。従って不断のこまかい注意をお互いが戒めあって守ることが第一である。不幸にして万一事故が発生した時は、職員も生徒も一致団結して、被害を僅少にするよう、行動し徒らな混乱をさげなくてはならない。事故は突発的に起ることが多いが、その時最も適正な措置がとれるようあらかじめ万全の計画と注意が必要であろう。次にそれらについて必要点を列記しておくから十分理解し、心がまえを新たにして、よく注意を守るよう希望する。一般的には団体行動であるという自覚の上になつて、行動を自制すること、自分一人の行動が誤れば、班又組、ひいては全体行動に影響を与えることを十分認識して欲しい。

はじめて行動するのであるから、常に、団長に連なる旅行団組織の中に入っていること。勝手な自由行動、グループをはなれた個人行動は厳につつしむことである。

### A 事故防止上の留意点

#### (1) 交通事故

イ 車内、又は外出時の心得を十分守ること。(前記旅行心得参照)

#### (2) 食中毒・伝染病・風邪

イ 旅館その他の食事、弁当には学校側としても万全の注意を払っているが、各自間食をとりすぎぬよう気をつけ、特に冷い飲物には、気候の故もあるが、努めて自戒し、消化器を弱らさないようにすること。

ロ 原則として生水は絶対飲まないこと。土地が変わると水あたりと言ふことが起る。弁当を野外で食べるがあるので、水筒は必ず準備すること。

ハ 睡眠不足が体を衰弱させ、他の病氣又は事故を誘発することが多い。特に車中、旅館では睡眠をとるよう心がけるとともに友人に迷惑をかけないよう注意すること。

ニ 車酔の心配のあるものは乗車三十分位前に菓をのみ気分を他にそらすようにすること。友人は席をゆずりあって窓ぎわ、又は振動の少ない所に、坐れるようにすること。

(3) 非行(けんか・万引・飲酒・喫煙)

イ 旅に出ると、ある開放感を感じ、それがひとつのよろこびではあるが、つい軽はずみな行動をしやすい。また群集心理によって後に悔を残すような行動に走ることがある。常に気分を引きしめ、誘惑に負けないようにすること。

ロ 先生の目が届かない機会がある。その時は各人が注意するのは勿論であるが、殊に各班長がその防止の中心となるように希望する。

ハ 行動や言葉、服装に気をつけて、他の不良につけねらわたることがないようにすること。

ニ 自由行動の際も必ずグループで行動し、非行を行なうすきをつくらぬようにすること。

(4) 盗 難

イ 現金・カメラ・時計等の被害が多い。現金は分散して持ち、被害があっても額が少なくなるよう気をつけること。

ロ カメラ・時計は常時身からはなさないようにし、止むを得ない時は、友人に確実にたのんでおくこと。

ハ 旅館では班長がよく気をつけ、貴重品袋に入れて先生か宿にあずけるのも一方法である。

ニ 駅等で荷物を置いて行動する時は、一時預けを利用するか、又は、一箇所に集め、各荷物をひもで繋いで数名の監視人をつけること。

(5) 火災・その他

イ 自分が火を用いて、火災発生の原因をつくったり、車その他の器物を勝手に操作して、事故の原因をつくらぬように敵につつしむこと。

ロ 車や宿舎では、必ず不慮の災害の場合を考え、避難方法、その他の身の安全を守る方法を考えておくこと。

ハ H・R・Tから指示された非常の際の対策を、そのつどよく理解し、具体的に身の処し方を考えておくこと。

ニ 荷物、その他を常に整頓し、非常の際、機敏に行動出来るよう、  
又他の人の迷惑にならないようにすること。

## B 事故発生の際の措置

### (1) 交通事故

イ 被害者又は最初に事故を発見した者は、直ちにH・R・Tか他の先生に連絡する。

ロ 事故の種類、被害の程度によっては、車掌、警察、病院に連絡をするとともに、先生に急報する。

ハ H・R・Tの指示に従い、旅行委員、班長は自分の組や班の人員の掌握につとめ、一刻も早く平靜な状態に復するよう協力すること。  
ニ 被害者の救助には、本人の措置のみでなく、荷物その他についても班員全員で助け合うこと。

### (2) 食中毒・伝染病・風邪

イ 軽症な場合でも、班長がH・R・Tおよび本部の校医に連絡し、処置を仰ぐこと。

ロ 重症の場合は校医の先生の指示に従い適切な処置をとる。

### (3) 非行(特に不良等と争いを生じた場合)

イ 積極的に抵抗しないこと。出来ればグループの中の一名が交番か附近の家に助けを求めること。

ロ H・R・Tに事のなりゆきを必ず報告すること。

### (4) 盗難

イ 速かに、本人又は班長がH・R・Tに届出る。

ロ 班員、又は各組で協力して、爾後の措置にあたること。

### (5) 火災その他の災害

イ 発見者は、直ちに附近の人に大声で知らせるとともに、適切な方法で、救助又は避難に当たること。

ロ 発見者又は附近で知った者は、ただちに、急を先生に知らせ、適切な指示を仰ぐこと。

ハ 本部は、各H・R・T、旅行委員を総動員して、速かに混乱を収

め、秩序ある団体行動のとれるよう態勢を整えること。  
 ニ 各班長・副班長は自分の班員を確実に掌握し、一致協力した行動がとれるような態勢をつくり、H・R・Tの指揮をうけること。  
 ホ その後の行動は、H・R・Tの命令に絶対服従し、避難・救助その他を必ず班又はH・R単位で行なうこと。単独行動は絶対に許さない。

(6) 職員はただちに次の災害対策組織に切りかえ行動する。

## 災害対策組織

| 救護連絡 | 避難誘導       | 現場指揮指導     | 指揮  | 総指揮 |    |
|------|------------|------------|-----|-----|----|
| 中下   | 南 本<br>紘 川 | 山 兼<br>本 原 | 森   | 団長  | 一班 |
| 岡本   | 芦 中<br>田   | 河 山<br>野 県 | 新原  | 太 刀 | 二班 |
| 下岡   | 後 大<br>川 橋 | 国 島<br>川 川 | 藤 原 | 掛   | 三班 |



## 旅行団編成表

| 団長          | 副団長   | 分 団             |                 |                 |
|-------------|-------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 太<br>刀<br>掛 | 第1 森  | 3組 (兼原)<br>(中下) | 8組 (山本)<br>(南本) | 2組 (森)<br>(鯉川)  |
|             | 第2 新原 | 1組 (山泉)<br>(新原) | 4組 (河野)<br>(芦田) | 9組 (中)<br>(岡本)  |
|             | 第3 藤原 | 6組 (大橋)<br>(藤原) | 7組 (国川)<br>(後川) | 5組 (島川)<br>(下岡) |

### 《各班の係・内容》

班 長…… 班を代表して学習旅行委員を補佐し、班員掌握にあたり、とくに事故防止に留意する。

副班長…… 班長を補佐し、車中・宿所等において班員の世話にあたる。班員の保健衛生面に留意し、保健担当職員との連絡にあたる。

昭和四十四年度(第二学年)

# 学習旅行職務分担表

| 会<br>計         | 写<br>真      | 保健・遺失物            | 庶務             |                             |                               | 総務              |                         |        |             | 職<br>務<br>係      |
|----------------|-------------|-------------------|----------------|-----------------------------|-------------------------------|-----------------|-------------------------|--------|-------------|------------------|
|                |             |                   | 文章記録           | 学習指導                        | 設<br>営                        | 通<br>信          | 指揮指導                    | 渉<br>外 | 総<br>務      |                  |
| 中下・後川          | 大橋          | 中・下岡              | 岡本・南本          | 新原・芦田<br>国川                 | 鮎川・兼原                         | 南本・岡本           | 島川・河野                   | 山県・山本  | 藤原・森        |                  |
| 旅行費徴収・収支計算及び報告 | H・R写真の撮影と展示 | 保健衛生・救急<br>遺失物の整理 | 諸印刷及び旅行に関する諸記録 | 栞の作成・事前の学習指導計画<br>事後の学習成果計画 | 車中座席割・旅館部屋割<br>災害対策・車中、旅館全般指揮 | 連絡網の作成・旅行中の通信連絡 | 事前の全体指導<br>行動中の全般及び風紀指導 | 対外的交渉  | 企画・立案・全体の総括 | 職<br>務<br>内<br>容 |

2 年 1 組 ( 山 県 )

学習旅行委員 ( 波多野 恵・関口 信子 )

| 1 班 ( 8 ) 名 |   |   |   |   | 2 班 ( 7 ) 名 |   |   |   |        | 3 班 ( 7 ) 名 |   |   |   |   |
|-------------|---|---|---|---|-------------|---|---|---|--------|-------------|---|---|---|---|
| 長<br>副      | 池 | 之 | 上 | 讓 | 長<br>副      | 上 | 垣 | 隆 | 長<br>副 | 浜           | 家 | 誠 | 司 |   |
|             | 井 | 上 | 英 | 之 |             | 三 | 宅 | 哲 |        | 也           | 西 | 岡 | 哲 | 郎 |
|             | 田 | 中 | 春 | 樹 |             | 八 | 山 | 宏 |        | 治           | 川 | 上 | 昌 | 之 |
|             | 広 | 本 | 昌 | 彦 |             | 江 | 頭 | 孝 |        | 久           | 野 | 海 | 昌 | 範 |
|             | 松 | 田 |   | 浩 |             | 山 | 口 |   |        | 潔           | 岩 | 部 | 整 | 二 |
|             | 広 | 中 | 一 | 夫 |             | 木 | 野 | 正 |        | 則           | 辻 |   | 信 | 雄 |
|             | 中 | 西 |   | 聰 |             | 森 | 脇 | 敏 |        | 信           | 宍 | 戸 | 俊 | 文 |
|             | 宇 | 都 | 宮 | 嗣 |             |   |   |   |        |             |   |   |   |   |
| 4 班 ( 7 ) 名 |   |   |   |   | 5 班 ( 8 ) 名 |   |   |   |        | 6 班 ( 8 ) 名 |   |   |   |   |
| 長<br>副      | 山 | 田 | 則 | 孝 | 長<br>副      | 関 | 口 | 信 | 子      | 長<br>副      | 石 | 田 | 加 | 代 |
|             | 波 | 多 | 野 | 恵 |             | 熊 | 谷 | 史 | 子      |             | 高 | 崎 | 愛 | 子 |
|             | 朝 | 日 |   | 優 |             | 尾 | 上 | 結 | 子      |             | 高 | 市 | 章 | 子 |
|             | 杉 | 山 | 康 | 彦 |             | 沖 | 本 | 雅 | 子      |             | 種 | 本 | 桂 | 子 |
|             | 新 | 原 | 秀 | 朗 |             | 奥 |   | 千 | 波      |             | 豊 | 田 | 裕 | 子 |
|             | 谷 | 本 | 道 | 久 |             | 木 | 村 | 和 | 子      |             | 中 | 山 | 澄 | 子 |
|             | 高 | 橋 | 正 | 和 |             | 清 | 水 | 千 | 秋      |             | 北 | 岡 | 真 | 知 |
|             |   |   |   | 西 |             | 河 | 順 | 美 | 日      |             | 下 | 和 | 子 |   |

男 ( 29 ) 名・女 ( 16 ) 名 計 ( 45 ) 名

2年2組 ( 森 )

学習旅行委員 ( 平田 恒夫・谷本 典子 )

| 1班 ( 8 ) 名 |   |   |   |   | 2班 ( 7 ) 名 |   |   |   |   | 3班 ( 7 ) 名 |   |   |   |   |
|------------|---|---|---|---|------------|---|---|---|---|------------|---|---|---|---|
| 長副         | 平 | 田 | 恒 | 夫 | 長副         | 石 | 川 | 邦 | 治 | 長副         | 大 | 石 | 篤 | 享 |
|            | 小 | 川 | 吉 | 治 |            | 丸 | 川 | 裕 | 二 |            | 福 | 岡 | 利 | 紀 |
|            | 黒 | 木 |   | 隆 |            | 藤 | 本 | 隆 | 文 |            | 中 | 野 | 時 | 信 |
|            | 広 | 本 | 哲 | 也 |            | 本 | 谷 | 秀 | 文 |            | 舛 | 田 | 利 | 男 |
|            | 田 | 村 | 信 | 彦 |            | 中 | 村 | 吉 | 夫 |            | 大 | 田 | 敏 | 真 |
|            | 松 | 山 |   | 登 |            | 広 | 近 | 洋 | 彦 |            | 藤 | 井 | 敏 | 彦 |
|            | 福 | 田 | 光 | 法 |            | 岡 | 本 | 武 | 幸 |            | 下 | 田 | 敏 | 雄 |
|            | 守 | 屋 | 隆 | 生 |            |   |   |   |   |            |   |   |   |   |
| 4班 ( 8 ) 名 |   |   |   |   | 5班 ( 8 ) 名 |   |   |   |   | 6班 ( 8 ) 名 |   |   |   |   |
| 長副         | 佐 | 伯 |   | 新 | 長副         | 窪 | 田 | 道 | 子 | 長副         | 谷 | 本 | 典 | 子 |
|            | 城 | 口 | 龍 | 也 |            | 妹 | 尾 | 順 | 子 |            | 荒 | 木 | 朋 | 子 |
|            | 友 | 沢 | 高 | 秋 |            | 石 | 崎 | 康 | 子 |            | 木 | 村 | 惠 | 子 |
|            | 森 | 石 | 正 | 克 |            | 上 | 原 | 真 | 由 |            | 操 | 田 | 玲 | 子 |
|            | 竹 | 崎 | 和 | 裕 |            | 川 | 口 | 早 | 美 |            | 長 | 岡 | 容 | 世 |
|            | 塔 | 岡 | 尉 | 令 |            | 桑 | 田 |   | 苗 |            | 伏 | 岡 | 小 | 百 |
|            | 尾 | 田 | 正 | 和 |            | 柴 | 田 | 千 | 晶 |            | 程 | 野 | 由 | 合 |
|            | 佐 | 藤 | 聖 | 聖 |            | 中 | 塩 | 美 | 彌 |            | 吉 | 村 | 京 | 美 |
|            |   |   |   |   |            |   |   |   |   |            |   |   |   | 子 |

男 ( 30 ) 名・女 ( 16 ) 名 計 ( 46 ) 名

2年3組 (兼原)

学習旅行委員(茶置 隆雄・谷本奈知子)

| 1班 (7)名 |         |         |         |         | 2班 (8)名 |          |          |          | 3班 (7)名   |    |          |         |          |         |         |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|----------|----------|-----------|----|----------|---------|----------|---------|---------|
| 長副      | 応村高小加片沖 | 和井杉池藤岡原 | 孝義直淳則和宣 | 行範由義之洋行 | 長副      | 光冲菅筒岡川前西 | 野野原本本越田村 | 浩泰真雅三真   | 清二治成司正証康  | 長副 | 川茶木山浜神   | 真置村沢田由田 | 田隆清修省    | 聖隆清     | 一雄和薰司吾誠 |
| 4班 (7)名 |         |         |         |         | 5班 (8)名 |          |          |          | 6班 (8)名   |    |          |         |          |         |         |
| 長副      | 片小内木中藤三 | 桐草田下原田浦 | 庸利浩一和政  | 雄朗二修博則司 | 長副      | 広近河金城珍浜若 | 藤藤端村行田本  | 和美照桂幸京朋由 | 子代子子子子子子美 | 長副 | 谷田岩木菅立古室 | 本村田村野谷田 | 奈真真浩た道由通 | 知利由き道美由 | 子美子子子子子 |

男(29)名・女(16)名 計(45)名

2年4組 (河野)

学習旅行委員(檜垣 康二・桑原久美子)

|         |                                      |                                      |                                 |   |         |                                      |                                      |                                      |   |         |                                      |                                      |                                      |                                      |
|---------|--------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------|---|---------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|---|---------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1班 (7)名 |                                      |                                      |                                 |   | 2班 (7)名 |                                      |                                      |                                      |   | 3班 (8)名 |                                      |                                      |                                      |                                      |
| 長副      | 河<br>兒<br>稻<br>栗<br>出<br>中<br>松      | 野<br>玉<br>本<br>森<br>家<br>島<br>浦      | 幸<br>一<br>芳<br>寛<br>俊<br>勝<br>豊 | 雄<br>義<br>幸<br>爾<br>彦<br>也<br>次           | 長副      | 猪<br>上<br>梶<br>河<br>菅<br>菅<br>川      | 木<br>杉<br>村<br>村<br>田<br>原<br>原      | 省<br>博<br>博<br>章<br>泰<br>信           | 三<br>美<br>志<br>寛<br>治<br>二<br>毅           | 長副      | 東<br>山<br>菊<br>久<br>五<br>浜<br>榎<br>森 | 下<br>地<br>保<br>田<br>岡<br>岡           | 和<br>敬<br>素<br>徹<br>真<br>敏<br>達      | 男<br>郎<br>樹<br>郎<br>行<br>男<br>真<br>資 |
| 4班 (8)名 |                                      |                                      |                                 |   | 5班 (8)名 |                                      |                                      |                                      |   | 6班 (8)名 |                                      |                                      |                                      |                                      |
| 長副      | 檜<br>入<br>石<br>加<br>要<br>鷹<br>多<br>山 | 垣<br>谷<br>井<br>藤<br>田<br>尾<br>賀<br>田 | 康<br>啓<br>保<br>崇<br>圭           | 二<br>文<br>宏<br>可<br>治<br>昭<br>次<br>郎<br>成 | 長副      | 桑<br>安<br>石<br>石<br>川<br>小<br>真<br>内 | 原<br>藤<br>畠<br>川<br>原<br>林<br>田<br>藤 | 久<br>三<br>恵<br>智<br>良<br>陽<br>恵<br>恵 | 美<br>香<br>子<br>子<br>子<br>子<br>子<br>美<br>子 | 長副      | 峰<br>古<br>片<br>川<br>国<br>坪<br>福<br>山 | 崎<br>谷<br>川<br>西<br>保<br>内<br>本<br>根 | 留<br>君<br>と<br>洋<br>京<br>京<br>美<br>昌 | 美<br>江<br>子<br>子<br>子<br>子<br>恵<br>子 |

男(30)名・女(16)名 計(46)名

2年5組 (島川)

学習旅行委員 (碓井 裕史・石山 治子)

| 1班 (7)名 |                                      |                                      |                       |                                      | 2班 (7)名 |                                      |                                      |                                      |   | 3班 (7)名 |                                 |                                      |                                      |                                      |
|---------|--------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------|--------------------------------------|---------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|---|---------|---------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 長副      | 高<br>高<br>赤<br>片<br>曾<br>中<br>福      | 本<br>岡<br>坂<br>山<br>根<br>村<br>光      | 正<br>俊<br>隆<br>晃<br>佐 | 樹<br>司<br>真<br>則<br>一<br>真<br>今      | 長副      | 高<br>住<br>石<br>金<br>川<br>島<br>中      | 橋<br>吉<br>崎<br>田<br>上<br>津<br>浜      | 秀<br>和<br>芳<br>正<br>勝<br>一<br>啓      | 樹<br>明<br>樹<br>孝<br>則<br>誠<br>二           | 長副      | 福<br>浜<br>今<br>碓<br>国<br>林<br>安 | 長<br>口<br>井<br>井<br>田<br>原           | 育<br>真<br>正<br>裕<br>達<br>茂<br>吉      | 成<br>樹<br>三<br>史<br>郎<br>一<br>郎<br>彦 |
| 4班 (8)名 |                                      |                                      |                       |                                      | 5班 (8)名 |                                      |                                      |                                      |   | 6班 (8)名 |                                 |                                      |                                      |                                      |
| 長副      | 中<br>平<br>景<br>岡<br>胡<br>栴<br>山<br>湯 | 橋<br>原<br>山<br>原<br>子<br>谷<br>根<br>浅 | 明<br>和<br>裕<br>一<br>俊 | 光<br>朗<br>二<br>稔<br>雄<br>治<br>孝<br>夫 | 長副      | 西<br>中<br>赤<br>石<br>加<br>河<br>後<br>鶴 | 村<br>下<br>塚<br>山<br>納<br>原<br>藤<br>崎 | 道<br>真<br>伊<br>治<br>隆<br>歳<br>光<br>利 | 子<br>理<br>久<br>子<br>子<br>子<br>枝<br>江<br>子 | 長副      | 円<br>佐<br>大<br>神<br>高<br>中<br>藤 | 山<br>野<br>垣<br>田<br>保<br>山<br>胡<br>原 | 厚<br>裕<br>玲<br>房<br>世<br>玲<br>初<br>憲 | 子<br>美<br>子<br>江<br>子<br>子<br>美<br>子 |

男(29)名・女(16)名 計(45)名

2年6組 (大橋)

学習旅行委員 (水島 浩・高田 好子)

| 1班 (8)名 |          |          |          |          | 2班 (7)名 |          |          |            | 3班 (8)名  |    |          |          |          |          |
|---------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|------------|----------|----|----------|----------|----------|----------|
| 長副      | 石久大岩亀井岡松 | 岡坂木田次上原本 | 伸斗正敬義義博崇 | 一了彦二之幸幸宣 | 長副      | 関山下向平松藤  | 藤田岡田岡本光  | 雅勝民信幸考     | 喜也浩人幸人司  | 長副 | 水見清渡三西寺高 | 島山水川村本内橋 | 隆芳雄勝敏秀伸  | 浩久雄志好朗樹之 |
| 4班 (6)名 |          |          |          |          | 5班 (8)名 |          |          |            | 6班 (8)名  |    |          |          |          |          |
| 長副      | 齐恩山中松久   | 藤田手西下保   | 昌士孝寿     | 幸朗明之涉彦   | 長副      | 堀府加竹野能本森 | 内本納内田登間沢 | みどり早昌彌弘真和順 | り苗子生美弓代子 | 長副 | 高武井加田松山原 | 田方関藤中田下田 | 好克辰辰文容真洋 | 子江子子子子子  |

男(29)名・女(16)名 計(45)名



2年7組 (国 川)

学習旅行委員(畑本 範文・亀川 泰代)

| 1班 (7)名 |   |   |   |   | 2班 (7)名 |   |   |   |   | 3班 (8)名 |   |   |   |   |   |
|---------|---|---|---|---|---------|---|---|---|---|---------|---|---|---|---|---|
| 長副      | 德 | 楽 | 賢 | 二 | 長副      | 大 | 藤 | 雅 | 敏 | 長副      | 賀 | 谷 | 隆 | 太 | 郎 |
|         | 谷 | 中 | 慶 | 宣 |         | 松 | 下 | 成 | 仁 |         | 片 | 岡 | 勝 | 海 |   |
|         | 飯 | 田 |   | 聰 | 伊       | 達 | 裕 | 之 | 梨 | 木       | 隆 | 志 |   |   |   |
|         | 石 | 本 |   | 淳 | 田       | 畑 |   | 茂 | 畑 | 本       | 範 | 文 |   |   |   |
|         | 菅 |   | 生 | 男 | 西       | 村 | 邦 | 夫 | 檜 | 垣       | 健 | 二 |   |   |   |
|         | 佐 | 木 |   | 徹 | 宮       | 下 | 敏 | 男 | 福 | 村       | 龍 | 男 |   |   |   |
|         | 餅 | 田 | 良 | 頭 | 安       | 仲 |   | 健 | 藤 | 原       | 滿 | 師 |   |   |   |
|         |   |   |   |   |         |   |   |   | 古 | 屋       | 敷 | 光 |   |   |   |
| 4班 (7)名 |   |   |   |   | 5班 (8)名 |   |   |   |   | 6班 (8)名 |   |   |   |   |   |
| 長副      | 小 | 林 | 徹 | 夫 | 長副      | 亀 | 尾 | 美 | 智 | 長副      | 森 | 田 | 敬 | 子 |   |
|         | 丸 | 子 | 理 | 生 |         | 岡 | 本 | 幾 | 子 |         | 白 | 根 | 由 | 起 | 子 |
|         | 小 | 倉 | 仁 | 亮 | 安       | 部 | 智 | 枝 | 河 | 原       | 麗 | 子 | 子 |   |   |
|         | 三 | 木 | 恭 | 博 | 内       | 迫 | 美 | 津 | 瀬 | 戸       | み | ゆ | き |   |   |
|         | 平 | 原 | 敏 | 彦 | 亀       | 川 | 泰 | 代 | 高 | 木       | 美 | 智 | 子 |   |   |
|         | 本 | 田 | 耕 | 二 | 福       | 田 | 林 | 子 | 豊 | 田       | 啓 | 清 | 子 |   |   |
|         | 藤 | 野 | 博 | 之 | 藤       | 井 | 佐 | 子 | 松 | 谷       | 妙 | 美 | 子 |   |   |
|         |   |   |   |   | 若       | 松 | 恵 | 美 | 村 | 上       |   |   |   |   |   |

男(29)名・女(16)名 計(45)名

2年8組 (山本)

学習旅行委員(井手畑隆政・西本 尚子)

| 1班 (8)名 |                           |                      |                     | 2班 (7)名              |    |                      |                      | 3班 (7)名                   |                            |    |                      |                      |                     |                            |
|---------|---------------------------|----------------------|---------------------|----------------------|----|----------------------|----------------------|---------------------------|----------------------------|----|----------------------|----------------------|---------------------|----------------------------|
| 長副      | 正黒<br>梶中<br>井手<br>清松<br>行 | 岡木<br>田村<br>畑水<br>原友 | 謙直<br>克隆<br>哲恒<br>重 | 讓二<br>樹彦<br>政夫<br>彦視 | 長副 | 越国<br>冲吉<br>檜島<br>脇  | 智吉<br>本村<br>垣本       | 英康<br>二俊<br>哲典<br>弘       | 雄彦<br>郎夫<br>基之<br>昭        | 長副 | 笹石<br>塚大<br>楠幅<br>中  | 栗崎<br>本木<br>本野<br>森  | 善伸<br>祐長<br>和       | 文二<br>誠治<br>正義<br>徹        |
| 4班 (7)名 |                           |                      |                     | 5班 (8)名              |    |                      |                      | 6班 (8)名                   |                            |    |                      |                      |                     |                            |
| 長副      | 畝住<br>今藤<br>難瀨<br>工       | 井村<br>井波<br>尾田       | 義和<br>正義<br>尚       | 人修<br>明則<br>郎真<br>稔  | 長副 | 山須<br>森西<br>森遠<br>掛俣 | 口山<br>原本<br>永城<br>橋野 | 佳ま<br>つ聰<br>尚和<br>純芳<br>光 | 代み<br>つ子<br>子子<br>子子<br>子子 | 長副 | 本橋<br>門中<br>多折<br>田木 | 田本<br>田村<br>田出<br>中原 | 麗幸<br>加雅<br>仁み<br>啓 | 子枝<br>緑奈<br>江子<br>美り<br>子子 |

男(29)名・女(16)名 計(45)名

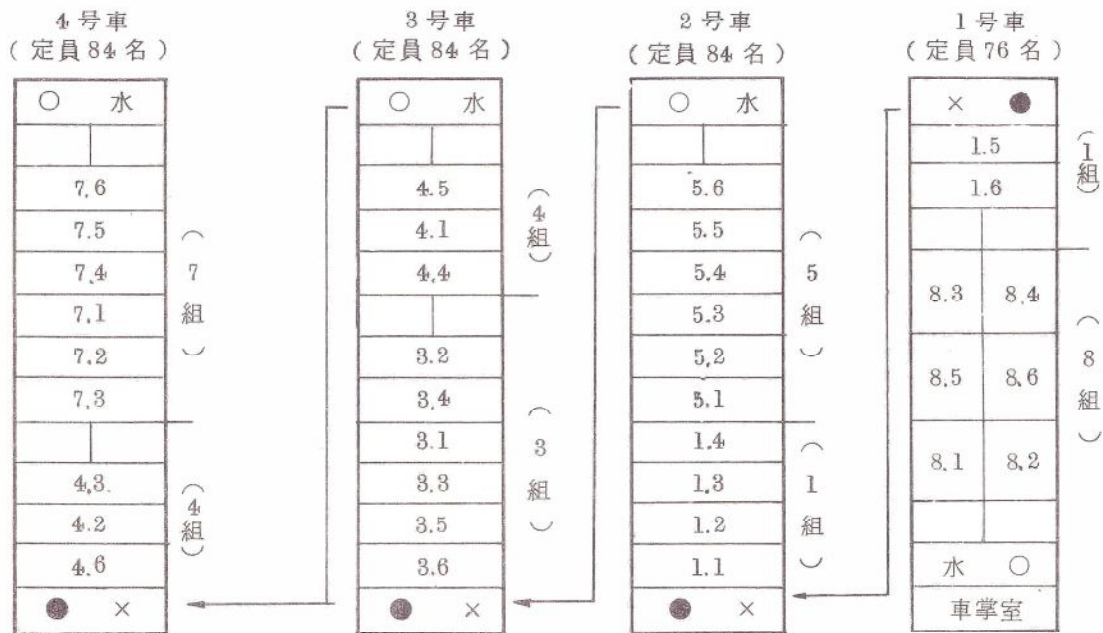
2 年 9 組 ( 中 )

学習旅行委員 ( 武知 道子・村高 純子 )

| 1 班 ( 8 ) 名 |                                      |                                      |                                      |   | 2 班 ( 8 ) 名 |                                      |                                      |                                      |   | 3 班 ( 8 ) 名 |                                      |                                      |                                      |   |
|-------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|---|-------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|---|-------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|---|
| 長<br>副      | 中<br>折<br>青<br>川<br>児<br>佐<br>白<br>長 | 田<br>中<br>山<br>西<br>玉<br>木<br>川<br>坂 | 百<br>一<br>文<br>三<br>京<br>千<br>た<br>洋 | 合<br>江<br>子<br>枝<br>子<br>種<br>つ<br>み<br>子 | 長<br>副      | 西<br>石<br>石<br>沖<br>竹<br>鳥<br>藤<br>務 | 富<br>田<br>田<br>中<br>下<br>越<br>井<br>中 | 紀<br>千<br>茂<br>ス<br>篤<br>純<br>邦<br>真 | 栄<br>恵<br>子<br>江<br>子<br>子<br>仁<br>知<br>子 | 長<br>副      | 武<br>村<br>一<br>兼<br>禎<br>三<br>三<br>渡 | 知<br>高<br>原<br>重<br>本<br>浦<br>宅<br>辺 | 道<br>純<br>信<br>真<br>美<br>美<br>恵<br>泰 | 子<br>子<br>江<br>由<br>智<br>和<br>子<br>子<br>子 |
| 4 班 ( 7 ) 名 |                                      |                                      |                                      |   | 5 班 ( 8 ) 名 |                                      |                                      |                                      |   | 6 班 ( 7 ) 名 |                                      |                                      |                                      |   |
| 長<br>副      | 大<br>岩<br>赤<br>荒<br>岩<br>畠<br>林      | 江<br>佐<br>池<br>本<br>田<br>中           | 和<br>恭<br>芳<br>純<br>恵<br>恵<br>八      | 美<br>子<br>子<br>子<br>美<br>子<br>子<br>代      | 長<br>副      | 山<br>友<br>大<br>大<br>島<br>並<br>畑<br>渡 | 崎<br>沢<br>藤<br>森<br>津<br>木<br>本<br>部 | 多<br>史<br>美<br>利<br>ま<br>春<br>信<br>満 | 英<br>江<br>鈴<br>江<br>み<br>恵<br>子<br>子      | 長<br>副      | 国<br>川<br>梶<br>小<br>清<br>中<br>前      | 吉<br>村<br>原<br>尻<br>水<br>本<br>田      | 三<br>秀<br>圭<br>利<br>洋<br>栄           | 重<br>幸<br>子<br>子<br>江<br>子<br>子           |

男 ( 0 ) 名・女 ( 46 ) 名 計 ( 46 ) 名

# 列車座席割当表



( × ……洗面所, ○ ……くずもの入れ, 水 ……飲料水, ● ……便所 )

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 9  | 8  | 7  | 6  | 5  | 4  | 3  | 2  | 1  |
| 号車 | 号車 | 号車 | 号車 | 号車 | 号車 | 号車 | 号車 | 号車 |
| ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  |
| ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  |
| ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  |
| ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  | ⋮  |
| 5  | 7  | 6  | 9  | 4  | 1  | 2  | 8  | 3  |
| 組  | 組  | 組  | 組  | 組  | 組  | 組  | 組  | 組  |

バス乗車割当表

6号車  
(定員 76名)

|     |     |
|-----|-----|
| 車掌室 |     |
| ○   | 水   |
| 2.3 | 2.2 |
| 2.4 | 2.1 |
| 2.6 | 2.5 |
| 9.6 |     |
| 9.4 |     |
| 9.5 |     |
| ●   | ×   |

( 2 組 )

( 9 組 )

5号車  
(定員 84名)

|     |     |
|-----|-----|
| ○   | 水   |
| 9.3 |     |
| 9.2 |     |
| 9.1 |     |
| 6.6 | 6.5 |
| 6.1 |     |
| 6.2 |     |
| 6.3 |     |
| 6.4 |     |
| ●   | ×   |

( 9 組 )

( 6 組 )

\* ヌ 毛 \*

## 外 出 許 可 証

|         |     |
|---------|-----|
| 出 發 時 刻 | 時 分 |
| 帰着予定時刻  | 時 分 |

行動予定地

| 組 | 班 | 氏 名 | 組 | 班 | 氏 名 |
|---|---|-----|---|---|-----|
|   |   |     |   |   |     |
|   |   |     |   |   |     |
|   |   |     |   |   |     |
|   |   |     |   |   |     |
|   |   |     |   |   |     |
|   |   |     |   |   |     |
|   |   |     |   |   |     |
|   |   |     |   |   |     |
|   |   |     |   |   |     |
|   |   |     |   |   |     |
|   |   |     |   |   |     |
|   |   |     |   |   |     |
|   |   |     |   |   |     |
|   |   |     |   |   |     |
|   |   |     |   |   |     |

許 可 者

## 旅を終えて

長い旅路でした。お互に御苦労でしたが、色々な思い出と、何らかの感激を残して帰ることが出来たでしょうか。

先ず第一に疲れた体を充分休ませて下さい。慣れない団体行動と知らない土地の旅で、心身ともに旅の塵にまみれています。それを二学期のはじめまで、長く残さないよう一週間位は特に体気をつけることです。

第二に、まだ感激の新しい中に印象をまとめておくことです。素材を持ち帰っただけで、そのまゝ忘れてしまうのは如何にも惜しいことです。あるいは文章に綴り、あるいは歌に詠み、ささやかでも、我が旅の思い出とすることです。又旅のアルバムを整理し後々の思い出に残しましょう。

第三に学習テーマの結果を少しずつまとめて置きましょう。新学期の初め、リポートを見て諸君の観察眼が如何に鋭いかに驚くのを楽しみにしています。その結果を見てこの旅行の効果が十二分にあったという事になれば、これ程の喜びはありません。

第四は、いつまでも旅行気分に残っていないで、早く新しい気持ちになって、正常な学習生活のペースをとり戻すことです。光陰は矢の如し、勉学のシーズンは目前です。旅行後の気分のゆるみが、身体的にも、又学校生活の上にもマイナスにならないよう、くれぐれも気をつけて下さい。

そして二学期は共に旅した経験の上になつて、又培われた深い友情の絆に結ばれて、相ともに歩みをすゝめましょう。



個人情報のため削除。

|         |    |       |
|---------|----|-------|
| 所属班名    | 4組 | 4班    |
| 身分証明証番号 | 氏  | 名     |
|         |    |       |
| 保護者氏名   | 住  | 所(電話) |
|         |    |       |

|     |      |     |
|-----|------|-----|
| 月/日 | 宿泊場所 | 室番号 |
| /   |      |     |
| /   |      |     |

|                  |    |
|------------------|----|
| 班<br>員<br>名<br>簿 | 班長 |
|                  | 保健 |
|                  | 庶務 |
|                  |    |
|                  |    |
|                  |    |
|                  |    |
|                  |    |

所持品控え

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.